

2019年度 推薦入学試験（一般推薦等） 法学部 地域行政学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
71	48

※一般推薦（指定校含）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

本学科では、入学者に対して、高校卒業程度の基礎学力を身につけていることに加えて、特に以下の点について適性と意欲を持っていることを望みます。

1. 地域社会の出来事から、広く世界の情勢にまで関心を持ち、常に問題の本質を見極めようと努力する人物。
2. 何事に関しても、しっかりとした自分自身の考え方を育てるように学習し、同時に、他者との意見交換を通して、議論を建設的に発展させ、異なる考え方からも学ぼうと努力する人物。
3. 将来、自ら選んだ職業を通して地域に貢献することを希望し、それへ向けての努力を厭わない人物。

地域行政学科は、行政・民間部門において政策を企画・立案し、実務に対応できる人材、より深い見識と広い視野を身につけ、地域社会の発展に貢献できるような人材の育成を目指します。

特にA O型入学試験において、私たちは高い志を有し、地域や社会の動きに目を向け、行動力を有する情熱ある志願者を求めます。

これまでの勉強や部活動で得たもの、あるいはこれからの夢を、自分の言葉で表現できる能力を高く評価します。

3. 出題の意図

この小論文の出題の意図は、受験生が、これから地域における行政や政治を学ぶ上で、現代社会についてしっかり関心を持った上で、課題を自分で見つけ、かつその解決方法を考え、表現することができる能力を見ることである。

問題では、まず、今年が「平成最後の年」となることから、いわゆる「平成時代」の政治・経済・社会についての出来事を挙げさせることで、現代社会についての関心や理解度を見る。次に、これらの出来事から得られる教訓を述べさせることで、課題発見能力や課題解決能力、また表現力を見る。

これらは、本学科のアドミッション・ポリシーである①「地域社会の出来事から、広く世界の情勢にまで関心を持ち」、②「しっかりとした自分自身の考え方を育てるよう学習し」、③「地域に貢献し、それへ向けての努力を厭わない」という方針に合致する、また、現代社会の出来事を挙げさせることは、学力の三要素である「知識・技能」に、それらの出来事についての意見を述べさせることは「思考力・判断力・表現力等」や「主体性」等に合致する。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

まず、「平成時代」の政治・経済・社会についての出来事を三つ挙げて説明することができるかどうか評価基準となる。その際、一つ一つの具体的な歴史上の事実を正確に説明できるかが重要となる。

次に、そこから得られる教訓が、どれほど論理的に説明できているかが評価基準となる。ここでは、政治・経済・社会についての出来事の課題や成果を事実に沿って分析したうえで、これからの時代への展望を説明することが重要である。